



天茶っ子

2025年10月30日(木)

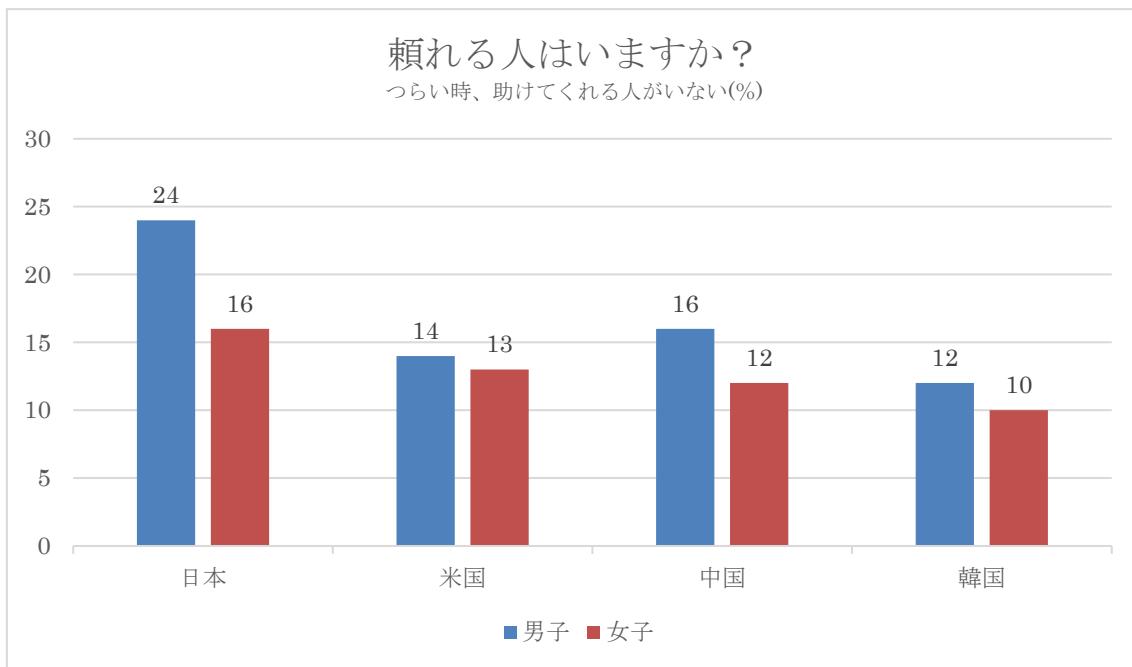
天下茶屋小学校

校長 清原良一

頼れる人はいますか？

ようやく秋空が気持ちよく澄み渡る季節となりました。食卓には秋の味覚が並び、風のさわやかさは長かった暑さを忘れ、本格的な秋を感じさせてくれます。子どもたちは相変わらず元気に学校へ登校してくれています。

興味深いアンケート結果を目にしたので、少し紹介します。



日本は、第2次世界大戦の焼け跡から高度経済成長といわれる戦後を築いた際、世界から「奇跡の復興を遂げた国」と言われました。その後何度も自然災害に見舞われましたが、その都度、人と人が力を合わせ、復興を遂げてきました。日本人は力を合わせることが得意で、人と人とのつながり(絆)が非常に強い国民であると言われています。しかし一方では、自己責任の名のもと、一人で頑張ろうとして、人に助けを求めることができない人が多いと言われています。子どもは「人に迷惑をかけるな」と言い聞かされて育ち、そのせいか「助けてくれる人がいない」と思っている日本の高校生は、他国と比べて多いことが上のグラフ(2020年高校生意識調査)から分かります。また、男女による性の差も大きく、女子よりも男子で高くなっています。これは「男なら弱音を吐くな」といった同調圧力が意識の中で働いているように思います。小中学生の自殺者の増加が問題視されてきましたが、「助けてくれる人がいない」「誰にも頼れない」と思っていては、救える命も助けられません。「つらい時には、いつでも助けを求めていい」と周りで説くだけでなく、親や周りの大人はアンテナを張り、子どもたちの思いを受け止め、真摯に寄り添う姿が今後一層必要になると思います。